

## 波紋



Ripple

2014年  
10月

創刊

1985年（昭和60年）7月

No. 352号

## 新入社員自己紹介

橋野 徳明（森松産業）



自己紹介をさせていただきます。昭和42年4月7日生まれの子と野球が好きで47歳のおやじです。車は11台目になるスズキのカプチーノ平成5年式（セカンドカー）、走行距離は13万キロで知り合いに譲ってもらった車に乗っています。現在17万キロですが譲ってもらってから15年経ちますが自分自身はそんなに乗っていません。が中古は中古、壊れ始めると次から次へと…。金食い虫で今までかかった修理代は百万以上（改造費も）です。でもまだまだ直す所はあり、今はエアコン・雨漏り・ダッシュボードの割れ・運転席シートの破れです。夏は暑すぎて車から降りると外の方が涼しく感じるくらいです。雨の時はエアコンが効かない為フロントガラスが曇り窓を開ければバイザーが無い為雨が入ってくるのでタオルは必需品です。そんな車でも愛着がありまだまだ乗るつもりです。

続いて野球ですが20年間草野球チームを作って選手兼監督をしていました。その間、自分の子供（2人）が野球をしたいと言いだす地元の野球チーム、森の里少年野球クラブに入りそれから教えるという立場になり自分の子供たちが卒団した今も毎週土日、祝日も教えています。今年はBチーム（4、5年生）10人を担当しています。子供たちの成長していく姿をみるのが楽しみです。すぐにできる子、なかなかできない子、でも子供たちはそれぞれに成長していきます。いつか教え子が甲子園で活躍してもらえるのが夢です。おまけで好きな音楽はヘヴィメタルです。マニアックですいません。皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

## 脳を鍛える

社長 森 直樹



先日、iPhoneが発売されるといふ発表があり今回はサイズの異なる2種類のラインナップ。すでに3G↓4↓5と3代に渡りiPhoneを使用している私もいずれ切り替えるタイミングを見計らっておりますが、この6年でスマートフォンは劇的に進化し、（でも不思議とバッテリーは長く持ちませんね）生活に不可欠のものとなつていっていると思います。しかし肝心なのはそれを使う側の性能はむしろ文字変換機能のお陰で漢字を書くことができなくなり、またマップ機能・ナビ機能のお陰で電車の乗り換えや目的地までの道順が覚えられなくなりました。スマートフォンが手元にある限り、「覚える」という作業は不要かもしれません、何よりも自分の記憶力＝脳の力という観念があり衰えさせたくない部分でもあります。そこで進化するデジタル機器に対して、自分自身の進化＝脳の機能の向上を調べてみたところ、妙に納得のいく事が多かったのでお知らせします。

- ・加齢とともに脳細胞は死ぬわけではない。情報を伝達することで脳の情報処理能力を支える基本細胞は加齢で死ぬわけではない。
- ・日々の行動の仕方、つまり経験や選択が脳の健康に影響する。同じパターンではなく、新しいことを行うことで新たな刺激が脳に与えられ活性化される。
- ・運動する。脳は独立しているわけではなく、運動、食生活、睡眠習慣などが関連している。運動することで脳内の神経伝達物質が増加する。

どうでしょうか？「新しいことにチャレンジする」「運動する」普段から良いとされていることのはずです。それが意外とできていないことにも気づきます。そして、最終的には日々の行動や生活習慣で活性化させた脳をどのように使うか＝行動するか。次の一手を打ち続けることが何よりも大きな刺激となり、より自分の脳を磨くことができると私は考えます。







# 10月の予定

4日(土) 第1土曜日休み

9日(木)

第22回元気が出る森松展  
本社ビル5階 9時〜17時まで

親睦会 ラグナスイートホテル  
9日18時00分〜

10日(金)

11日(土)

第2土曜日休み

13日(月)

体育の日

18日(土)

第3土曜日休み

23日(木)

森大輔さん誕生日

CS会議 14時10分〜

生産会議 12時〜

24日(金)

永年会…了山

加藤雅昭さん誕生日

25日(土)

第4土曜日休み

森松株式会社のオリジナルキャラクター  
切り紙の「マモリーリン」誕生しました!



このQRコードをLINEでスキャンしてください  
森松株式会社のLINEスタンプがダウンロードできます



森松株式会社 社内報

No: 352 平成26年9月25日

編集者

大石耕平 小原龍一 伊東義弥  
小坂美香 松井宜和 伊藤雅典

## ご飯にする?それとも味噌汁にする?

大石 耕平(東京オフィス)



昨年の事。結婚して3年になる嫁さんが、食事の前、僕に「ご飯にする?それとも味噌汁にする?」と聞くようになって久しい。全体的に謎である。ご飯と味噌汁を二項対立のようにとらえているのも妙だ。ご飯が食事全体を指すのか、白米(炊飯済)を指しているのかもよくわからない。実際、僕が「ご飯」といつても「味噌汁」といつても食卓に並ぶ食事が変わるわけではない(代替の食事は用意されていない)。きっと、抽象的で深遠な意味が含まれているのだろう。全部言葉にしなければいけないというわけではないけれど、肝心な事ははっきりとした言葉にしてもらいたい。僕がいかなる答えを出したあとでも同じようにふふと笑う嫁さんも正直不気味だ。2カ月間。ほぼ毎日。「ご飯がいい?味噌汁がいい?」↓「答え」↓「うふふ」というやり取りは続いた。耐えられなくなった僕は嫁さんに質問の真意をたずねてみた。すると「答えはあなたの心の中にあります」とジェダイマスターか、禅問答のようなことを言う嫁さん。俗物を自認する僕の心の中に、何か深遠なものがあるはずもなく謎と悩みは深まるばかり。第二のヒントを懇願すると「軍神、毘沙門天。塩」。全く要領を得ない。結婚前後の記憶を紐解いてみた。すると、謎との関係はわからないけれど、僕は嫁さんとひとつ約束をしていたらしいことがわかった。忘れられた約束。ご飯味噌汁問題を解決につながるかどうかかわからないけれど、約束は約束だ。一度は守らなければならぬ。「結婚指輪を必ずする。」それが約束だ。僕は約束どおり指輪を嵌めることにした。正解だったらしい。嫁さんは2カ月間続けてきた質問を今夜はしてこなかった。しかし「ご飯にする?味噌汁にする?」の質問の意味は知りた。僕は訊いた。嫁さんは「ご飯と味噌汁が仲良くすれば、オカズが不味くてもなんとかなるものです。ご飯と味噌汁。一方が欠けても定食は成り立ちませぬ。」とあいまいな言葉で説明した。ご飯と味噌汁を夫婦にたとえて、夫婦関係の危機を伝える意図があったらしい。ご飯だけでもなく、味噌汁だけでもなく、両方に時に嫁さんの言葉は難解すぎる。某FXのテレビコマーションシャルのローラじゃないけど「んー、わかんない!」一方で僕にはわかっていた。曖昧なまま、意味がよくわからないまま、言葉を飲み込んでいくことが大事なときもあるのだと。「軍神。毘沙門天。それと塩は?」「上杉謙信は相手が欲しがってるものをプレゼントしたでしょ」。なるほど。然り。僕は今、嫁さんが食器を洗うカチャカチャという優しい響きのなかに、塩を運ぶ牛車の音を聞いている。その塩を届けられるのは僕だけなのだ。